ちょっとうれしかったこと

創世記２：１８－２５

２０２1/1/1

１月１日、youtube で「クリスチャンのセックス事情について」という若い女性たちの動画を見ました。また関連して、クリスチャン女性が、性や結婚についてあるいは文化について論じているものを読むことができ、若い女性たちが堂々と、聖書に従って意見を言おうとしていることに、ちょっとうれしくなりました。彼女たちが教会の伝統に縛られず、一生懸命にクリスチャンとして生きようとしていることが分かり、とても励まされました。彼女たちはみな、きちっとした教会に連なるクリスチャンで、結婚以外の性交渉に反対の立場ですが、まだまだ聖書の理解が浅く、いろいろな間違いや勘違いがあるのには、少なからず、心配もするものです。

Ⅰ．　聖書の基本的教えに立つ　この女性たちが、一所懸命に神様に喜ばれる生き方をしようとしているのはわかりますが、断片的な聖書知識を接ぎ合わせて考えているため、脆弱さがあります。聖書の基本的教えに立つのが原則です。

それは、人間は神の創造の目的に沿って生きるのが最善であるということです。雀は雀として生き、チンパンジーはチンパンジーとして生きるように、人間は人間として生きるのです。人間が生きる原則は、その創造の物語に記されています。男と女に造られたのは、互いに愛し合い、助け合い、補い合いながら生きるためです。そこに愛があり、セックスが存在するのです。一人の男と一人の女が、この世に生きる限り、相手を愛し忠誠を保ちながら生きるのが、神がお造りになりさだめられた形です。その形に添うことが、人間の幸せにつながります。社会的にだけではなく、心理的にも、また生理学的にもそのように造られているのです。神に造られた原則に反した生き方をすると、のこぎりで料理をしたり、包丁で大工仕事をしたりするようなことになるのです。

自由が主張され、そこに人権が叫ばれますが、人間は人間として、たとえ自由が制約されたとしても、人間が造られた原則に従って生きるのが最善なのです。

Ⅱ．　セックスと罪の意識　面白いことに、性の自由を叫び、自由な性行動の有益性を訴える人たちも、そのような性行動に罪意識を持つことが多いのです。理論と感覚は異なっているのです。多くの人たちは、その罪意識を払いのけようとして、懸命になって言い訳をします。なぜ、罪意識があるのでしょう。それは人間が人間であるように与えられた、神の性質、人間の本性に反するからです。

　また良心も、それが間違っていると語り掛けます。良心は、人間の本性が、教育や文化などに適応して萌え出たもので、全人類に共通ではありませんが、人間の本性から芽生えてきているために、大いに類似性があります。それで、自由奔放な性行動には、たいてい良心の痛みを感じるのです。

　ただし、聖書が教える性と結婚は、現代の私たちの性と結婚に関する法律や社会常識とは異なっていますので、注意が必要です。最善は聖書に従い、社会常識や法律にも従うことですが、それができないところが問題なのです。

　私たちはクリスチャンとして、神がお定めになったように生きることを、第一にしなければなりません。国家の法律が聖書の教えに明確に反する場合、たとえば不倫を合法としても、私たちはそれに反対して、聖書に従って生きようとするのです。

　ただ、神の定めに従いたくても、従えない弱さを持っているのが人間です。たとえ、クリスチャンでも、その弱さから逃れることはできません。ただ幸いなことは、神様は人間の弱さに寄り添って、ある程度の妥協をしてくださるだけではなく、その弱い人間を愛し、罪を許すためにすべての準備を整えて下さっていることです。その上で、人間が神の許しを願って来ることを望んで、待っておられるということです。神のみ心に従えない人間も、神に許していただき、受け入れて頂けるのです。神は愛であり、罪ある人間を罰することをではなく、かえって、救うことに力を尽くしておられるのです。

　性の問題についても、神は罪を犯したものを罰することに興味を持っておられません。神の関心は何とかしてこの罪に苦しむ人間を救うことなのです。

Ⅲ.　神の赦しと赦しの結果を受け入れる　神がお造りになった仕様に従った生き方をするのが、最もよい生き方ではありますが、それができないようになっているのが、罪に支配されている人間です。だから、救いが必要であり、再び神の命に繋がる必要があるのです。それは悔い改めて神の許に行くことによって可能になります。でも、この世に生きる限り完全にはできません。まだまだ、毎日、いつでもどこでも神様の助けが必要なのです。

　幸いなことは自分にはできない、神様がお喜びになる生き方を、神様ができるようにさせてくださるということです。沖縄で救われた米兵相手の売春婦のお話をするのは、そのリアルな体験を通して、神様がどんなに素晴らしいことをしてくださるかを、知っていただくためです。

　この素晴らしい神の救いと助けの力を、私たちも体験していきましょう。また、人間の弱さに打ちのめされている人たち、様々な意見と見解に惑わされて、どう生きていいのかわからなくなっている人たちに、積極的に神様に信頼し、神様に喜ばれる生き方があることをお話ししていきましょう。

　ＬＧＢＴやそれに関連した問題も、論じられ始めてからもう長い時間が過ぎました。牧師たちは何かを恐れて、この問題を真面目に論じようとはしません。この問題にも多くの複雑な要因があり、様々な意見があります。クリスチャンとして言えることは、神様の創造に沿った生き方をするのが基本だということです。そこには病的な問題、心の怪我もありますし、単なる

興味や流行を追う人間たちもいます。病気やケガならば、それをより良い癒しに持って行く必要があります。単なる現代のトレンドならば、その間違いを正していく必要があります。クリスチャンは恐れずに語るべきです。

新しい年　神様の守りと導きを求め、神様のお喜びになることができる年となるように、前向きに、明るく、力強く生きて行きましょう。様々な困難が襲ってきたとしても、恐れることはありません。万軍の主が私たちの味方です。「神が私たちの味方であるならば、誰が私たちに敵対することができるでしょうか」と、使徒パウロも力を込めて断言しています。
　毎日、互いに祈り合い、信仰による神の家族の絆を強くしましょう。互いに助け合う心を育てましょう。